業務改善への取り組み

限られた人員で、ケアの質を保ち、同じ効果を、見出す為に！

春風会　　あしたかホーム　特養

春風会　あしたかホームの紹介

春風会あしたかホームは

昭和52年4月に開設し、

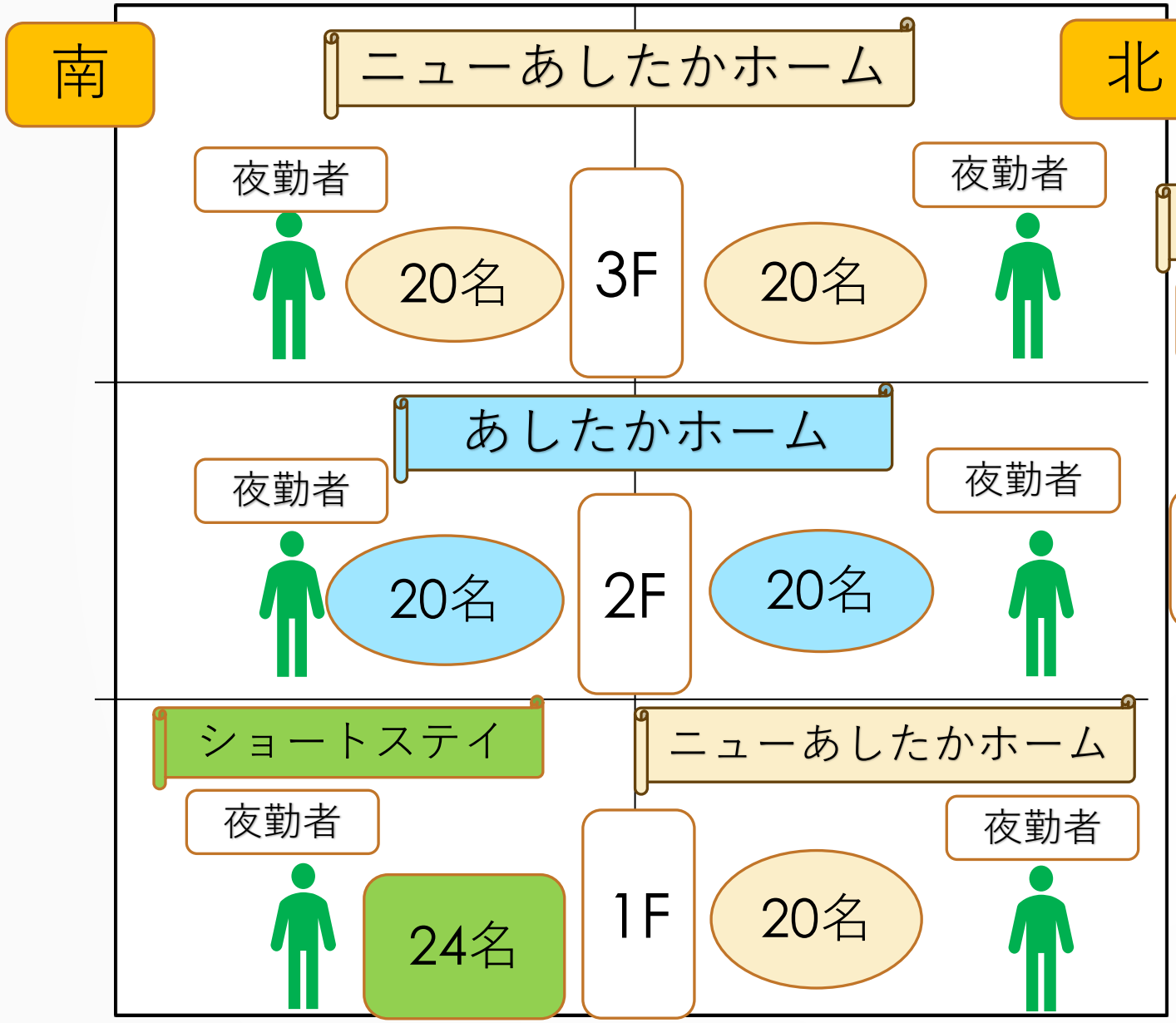
今年度、法人創立４６周年を迎える

・沼津市内の住宅地に建つ

・平成２３年１０月に全面改築し移転

・北には富士山、南には駿河湾を望む立地

あしたかホーム　入居・特養の体制



特養は計100名

ニューあしたかホーム：１F、3F

ユニット型個室60名：3ユニット

あしたかホーム：2F

多床室　36名　2ユニット
従来型個室　4名

ショートステイ

多床室　20名
従来型個室　4名

ショートステイは計24名

取り組みの背景

移転後からの1ユニット内の職員体制の変化

10年経つ中で・・・

①24時間勤務可能な職員の減少

- 8人～9人→5人～6人となり夜勤、遅番ができる職員が減少

②常勤換算の変化

- 9.5人ほど→8.0～8.5人ほどへ（年度途中に減る傾向が多い）

③様々な勤務体系の職員・外国人の雇用で構成

- 時短、時間固定勤務、EPA候補生、在留外国人、技能実習生、留学生

取り組みの背景

H27年度の改正で、入居の要件が介護3以上となった

①特養全体の入退去の人数の増加

- 年平均が20名≒が令和元年からは30名≒～35名≒に増えている

②在籍日数の減少

- 令和元年～4年度まで、1人平均在籍日数が、1050日≒⇒950日≒へ減少

③ターミナルへの移行、重度化への加速

- 100名中、標準型車椅子使用者45名、ティルト式リクライニング使用者50名で、1ユニット平均10名≒
- 移乗時はスライドボードを使用し、2人移乗⇒リビングでの事故防止の為、離臥床の際は職員の配置が3名必要

取り組みの背景：課題

いつも人がいない！

いつまで続くんだろう？

介護事故を防ぐためにはどうしたらいいの？

今月になって、入れ替わりはどのくらいだろう？

ユニットによって、人のバランスが悪くないのかな？

ヘルプに行くのはいいけど、自分のユニットと違くてわからない事が多いな！

外国人の職員さんとうまくやっていけるかな？

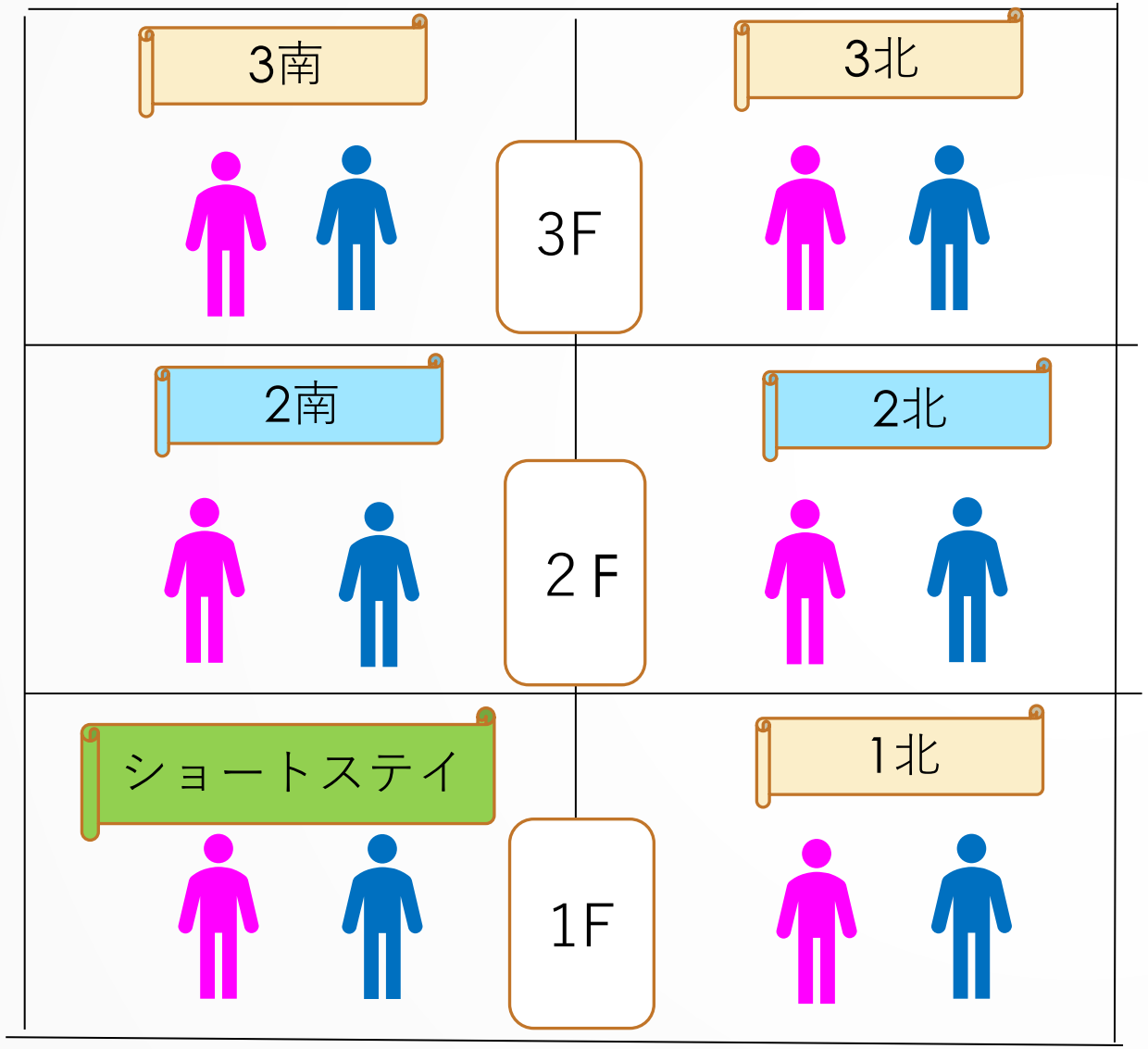
取り組みのコンセプト

今までの方法に捉われず、今に合った現場を作る

限られた人数で、ケアの質を保ち、現場のムリ、ムダ、ムラを軽減し効果を最大限に引き出す

1、特養の体制の見直し

移転時　H23年10月～H30年度まで

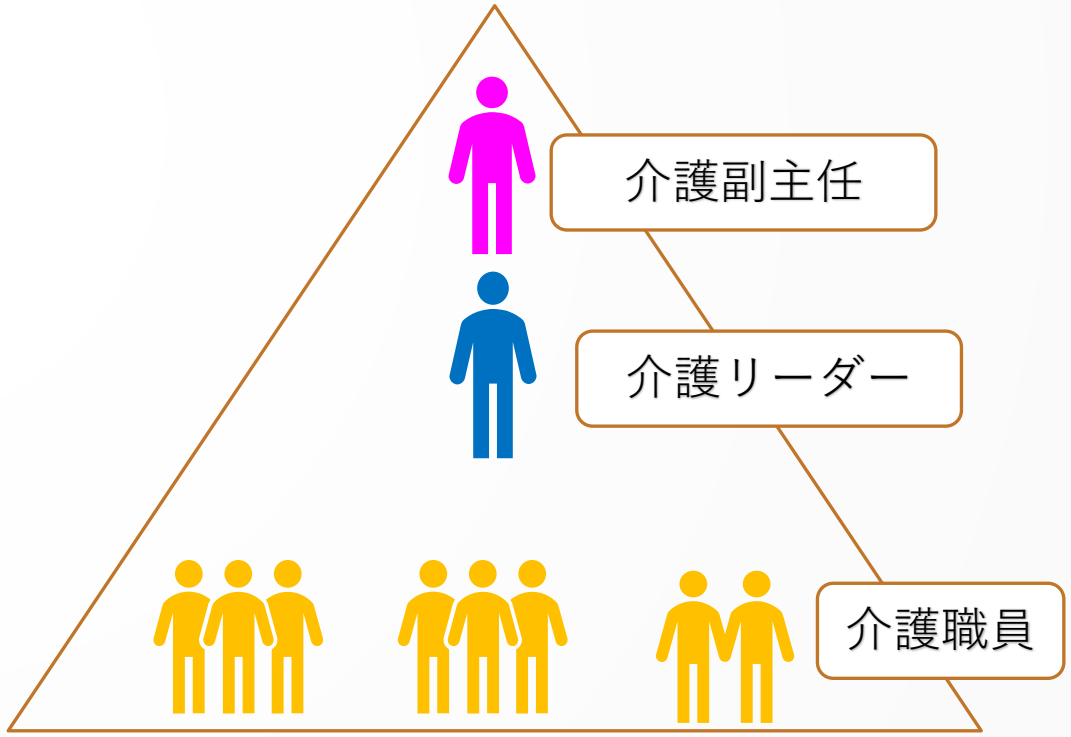


介護長

施設ケアマネ

生活相談員

1ユニットには、副主任、リーダーを1人ずつ配置し5ユニットで構成した



1、特養の体制の見直し：「もっと容易に助け合いたい！」

その時の体制で、できる工夫、連携を図ってきたが・・・

職員の調整

勤務表で調整

日単位のヘルプ

月単位のヘルプ

人の調整がもっと容易にできればいいのに！

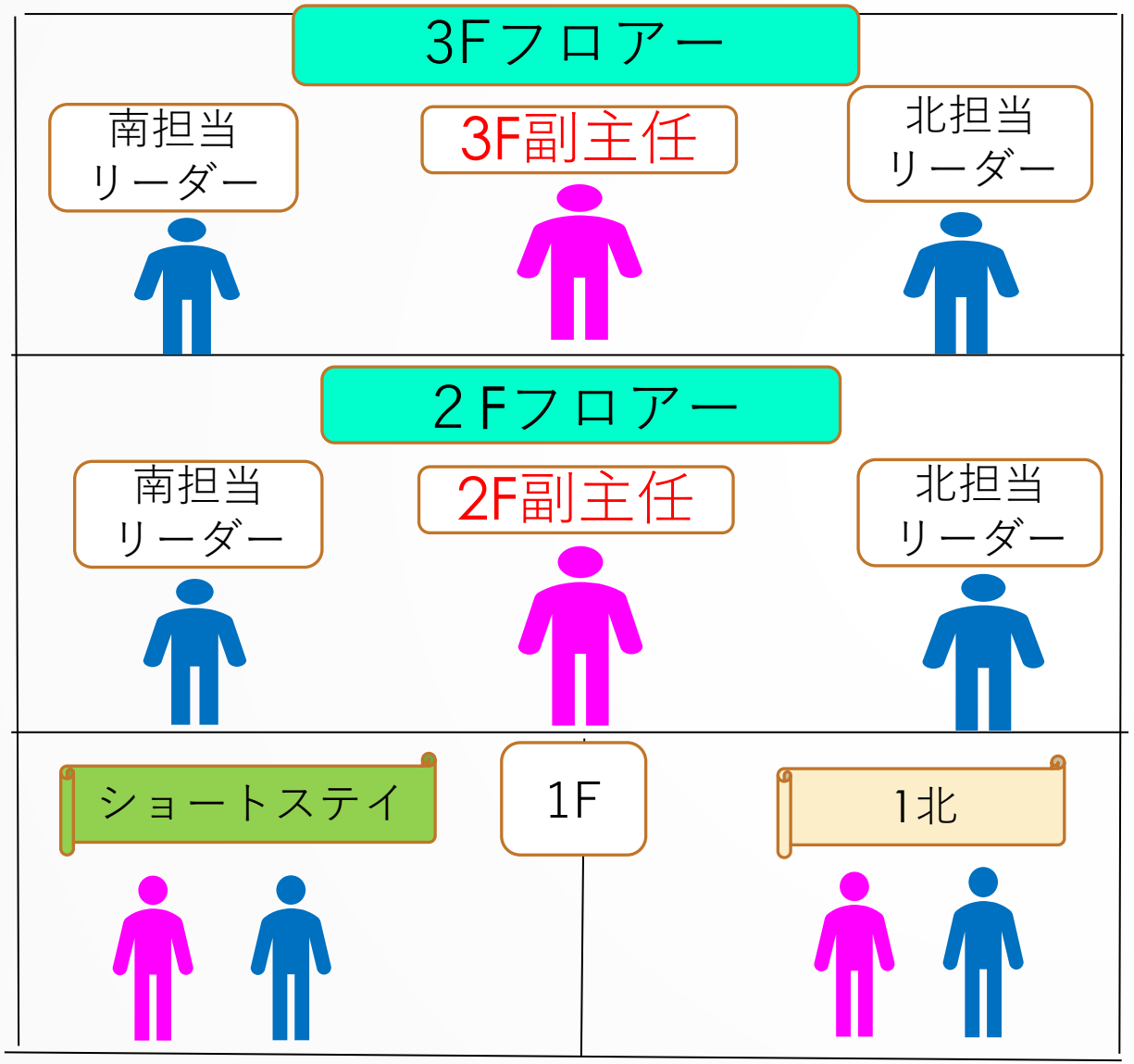
急な調整が多いから勤務表で調整できない！

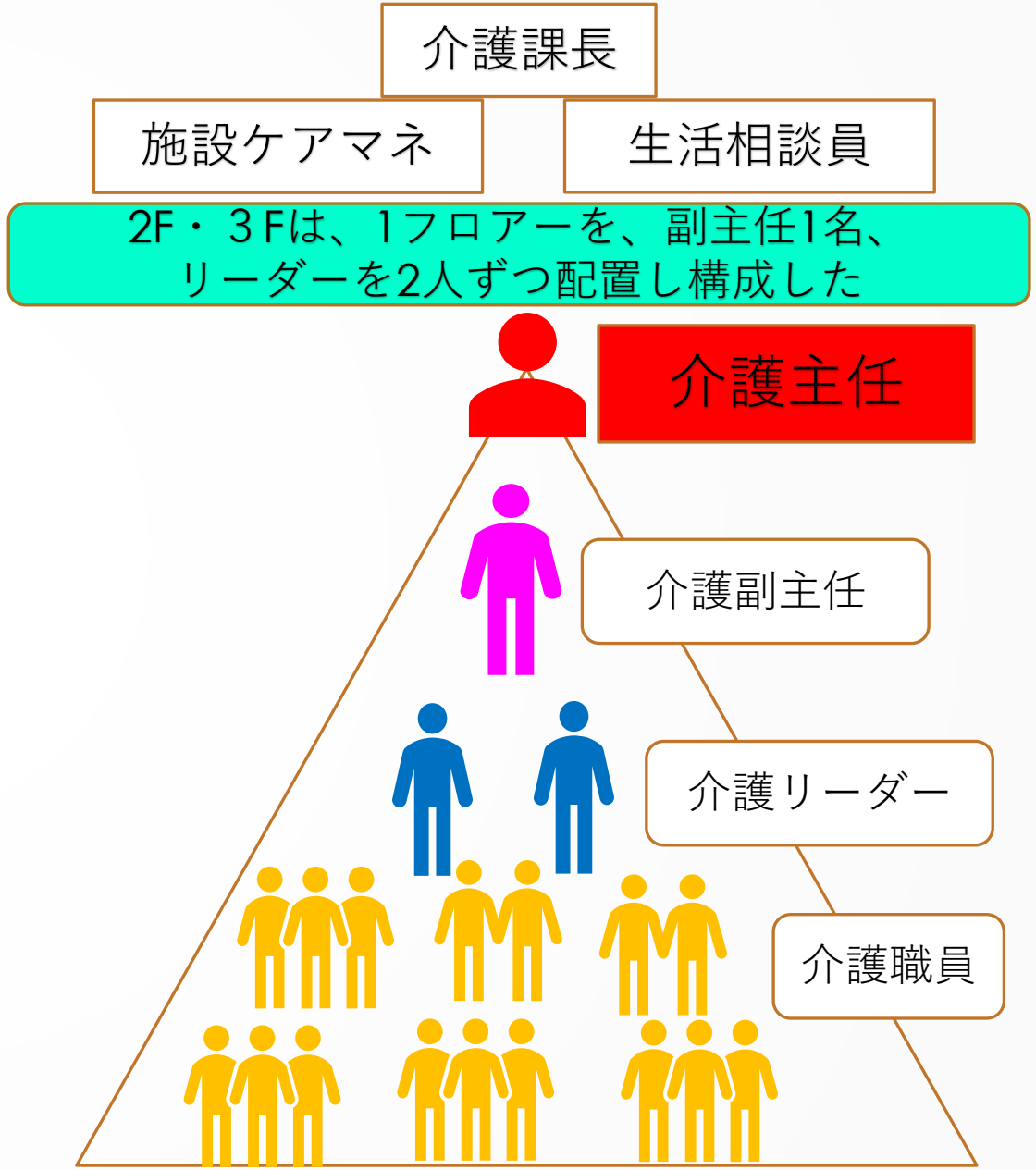
自分のユニットだけだと、限界があるな！

急に調整が必要になったとき、上司がいないとできなくて、現場に無理が出る！

1、特養の体制の見直し「もっと容易に助け合いたい！」

令和元年～令和2年7月まで





1、特養の体制の見直し　「もっと容易に助け合いたい！」

職員の調整

日報で調整可能

急な調整が可能に

北・南の連携がスムーズになった

2階・3階をフロアー体制にし、1人の副主任にしたが・・・

副主任が1人だと、なんだかやりにくい！

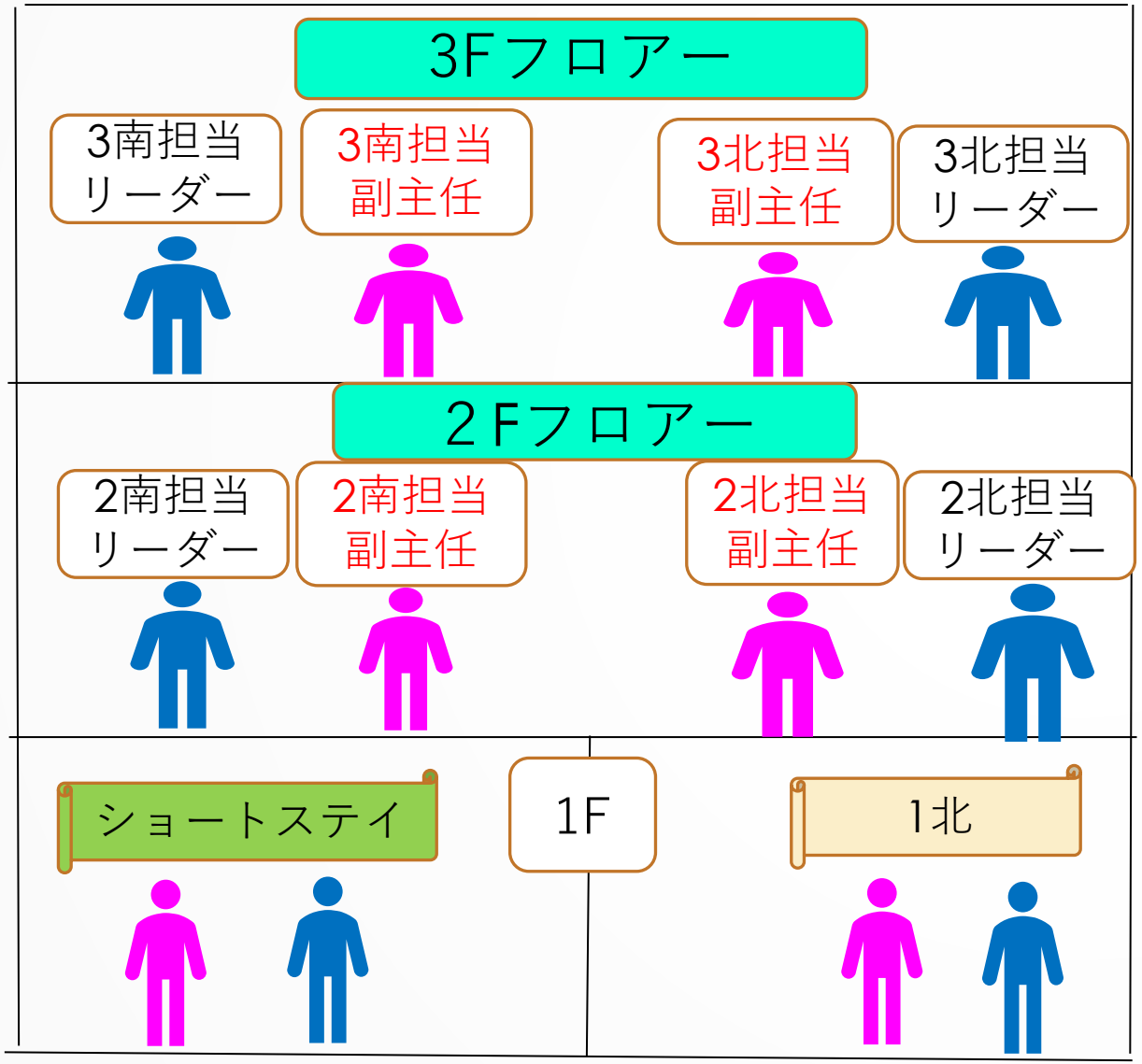
介護主任は忙しそうで相談しにくい！

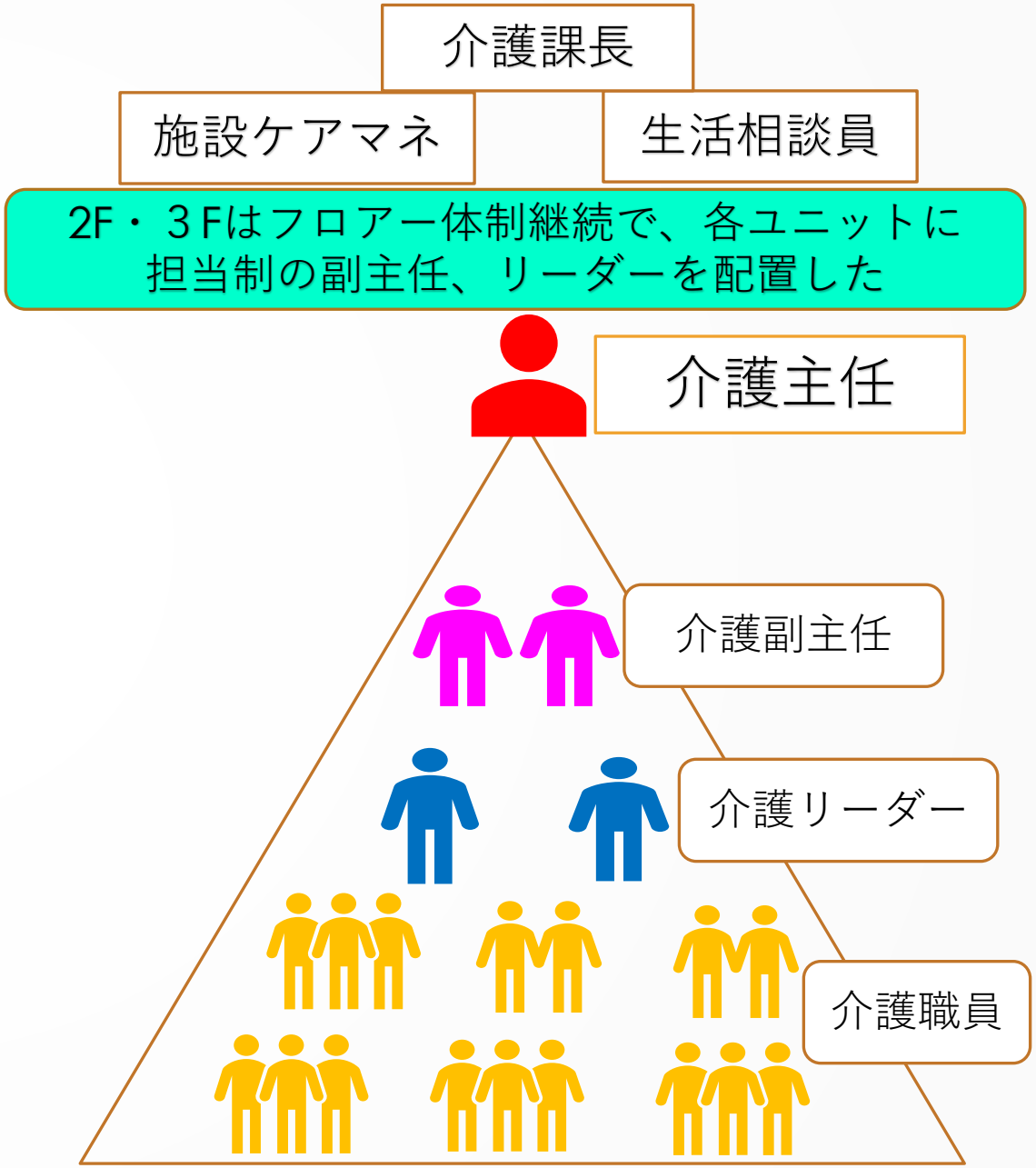
副主任が夜勤に入っているから、相談したくてもすぐにできない！

こっちのユニットは副主任が業務に入っていないから、いないのと同じ！

1、特養の体制の見直し「もっと容易に助け合いたい！」

令和2年8月～現在まで





2、介護間・多職種との連携の方法の見直し

①介護士同士：いつ、誰が、どこでも、困らないように！

ヘルプに来たけど！

１人で配膳しなきゃならないのに、わからない！

間違えたら大変！

ご飯？お粥？トロミ剤は必要なの？

食札の統一

あしたか　花子様

- 粥：200g
- 副食：常食を1口大にカットする
- 味噌汁：普通
- お茶はコップで、トロミ少量使用
- 乳製品は禁止
- 箸、スプーン使用

2、介護間・多職種との連携の方法の見直し

①介護士同士：いつ、誰が、どこでも、困らないように！

ユニットケアだから、
食器は個人別にした
けれど・・・

1人ひとり違うから、セットに時間がかかる

間違えたら大変！

茶碗・お椀・コップは統一した

2、介護間・多職種との連携の方法の見直し

①介護士同士：いつ、誰が、どこでも、困らないように！

電子カルテへの記録入力を、外国人職員も容易にする為に、

外国人でもわかりやすい方法を考えなくては！

ユニットによって書式が違う！

外国人職員も入力を確実にしてほしい！

忙しいから、チェック式の書式がいいのでは！

メモ書きのチェック表を、ルビをふった書式に統一した！

なまえ 名前	しょくじ 食事			かんしょく 間食		
	あさ	ひる	ゆう	7時	10時	15時
あしたか　はなこ　さま 愛鷹　花子様	/7　/10 すいぶん 水分 （　　ml） りゅうどう 流動（　　）	/7　/10 すいぶん 水分 （　　ml） りゅうどう 流動（　　）	/7　/10 すいぶん 水分 （　　ml） りゅうどう 流動（　　）	ジョア まめぴよ ジュース ミルミル その他 （　　ml）	ジョア その他 （　　ml）	コープ 持ち込み 手作りおやつ 水分 （　　ml）

薬札の導入で、投薬事故「ひと間違い」をゼロに！

令和２年４月以前

①看護師によるセット、ダブルチェック

②介護士によるダブルチェック

③投薬マニュアルに基づいて投薬

朝・昼・夕・眠前・名前の確認

あしたか花子様

あしたか花子様

ひと間違いゼロに！

令和２年４月以降から現在

顔写真を使った薬札でダブルチェック！

朝・昼・夕・名前・顔・錠数の確認

あしたか花子様

あしたか花子様

あしたか花子様

あしたか花子様、朝、錠剤7です！

看護師がダブルチェックした
個別の内服ケース

介護士2名で、名前、時間、錠数を
ダブルチェックし、顔写真をセットする

薬札の導入で、投薬事故「ひと間違い」をゼロに！

はい！お願いします！

投薬前にもう一度、ダブルチェック

あしたか花子様、朝食時のお薬いきますね！

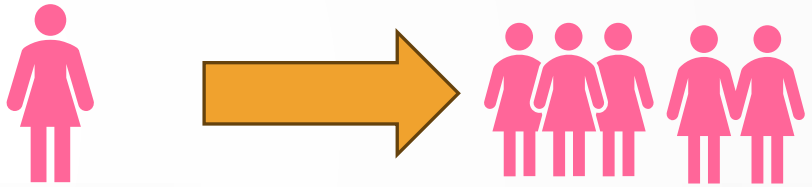
2、介護間・多職種との連携の方法の見直し

①介護士同士：多様な働き方を有効に配置し、現場も職員も　Win　Win

働き方に合わせ、新しい勤務形態を拡げた

早番だけでも
①5時～14時
②6時～15時
③6時30分～15時30分
④7時～16時
⑤7時30分～16時30分
と5パターンある

介護員を配置し、介護業務を直接介助と間接介助に整理した



2、介護間・多職種との連携の方法の見直し

②介護士と看護師：助け合いを強める為に動線を短くする

看護師専用のPCの台数の見直し

医務室に３台

各フロアーに
看護師専用１台ずつ

リビングで記録、
情報収集、連携強化

2、介護間・多職種との連携の方法の見直し

②介護士と看護師：動線を短くし、助け合いを強める

リビングに背中を向けて記録
業務を行っていた

リビング内にPC台を設置し、
必要時は見守りを行っている

2、介護間・多職種との連携の方法の見直し

③看護師同士：1人より2人でパワーアップ！

1人でユニット担当

2人でフロアー担当

業務の分散

アセスメント力向上

ストレス軽減

3、福祉機器、用具の活用

人材不足を機器で補い、事故防止、質の向上を目指す

①インカムの活用の拡大の経過

需要台数の増加

朝の申し送りは
インカムで実施

H28年	H29年	R2年	R2年	R3年
6台	13台	17台	26台	33台

夜勤者のみの
使用

緊急時は瞬時
に助け合え
る！

各ユニットに
4台ずつ設置

3、福祉機器、用具の活用

人材不足を機器で補い、事故防止、質の向上を目指す

②各センサー類の活用の拡大：特養全体

離床センサー	H27年：15台	令和5年3月：25台
センサー内蔵ベッド	令和元年：5台	令和5年3月:15台
眠りスキャン	H30年：5台	令和5年3月：14台

3、福祉機器、用具の活用

③重度化への対応と腰痛、事故防止対策

2人介助用ボード

H26年：5枚⇒令和5年：11枚

1人介助用ボード：5枚

スライドシート

H26年：5枚⇒令和3年：15枚

ターンテーブル：5枚

5、環境整備で、現場のムリ、ムダ、ムラを無くす

断捨離と５Ｓで、現場の動線をスリム化し、誰がどこに行っても同じ環境にする

書類・物の整理

電話台は、多職種で共有する書類置き場とした

5、環境整備で、現場のムリ、ムダ、ムラを無くす

断捨離と５Sで、現場の動線をスリム化し、誰がどこに行っても同じ環境にする

物の所在を統一する

ユニット内の介護材料室を整理し、在庫管理が可能な環境にした

6、考察

①特養の体制

・副主任が夜勤業務に入る事が必須であるので、1フロアーに1人の配置には無理があり、1ユニットに副主任、リーダーの配置が必要

・2階、3階のフロアー体制は、日報で速やかに人の調整ができ、フロアー間の連携は容易にできるようになった

②多職種連携

・誰が、どこのユニットに行っても困らないように、物の見直しをしたことは、感染症発症の際にも効果があった

・看護師がリビングで記録業務に入る事で、介護士との連携は強くなった

・介助員の導入で、介護士が専門業務に専念することができ、介護業務のすみわけができた

③福祉機器の活用

・インカム、センサー類を活用して、事故防止、重度化対策に繋がっている

④環境整備

・必要な物、その所在を統一したことで、動線がシンプルになり、ムリ、ムダ、ムラの減少に繋がった

7、今後の課題

今までの方法に捉われず・・・

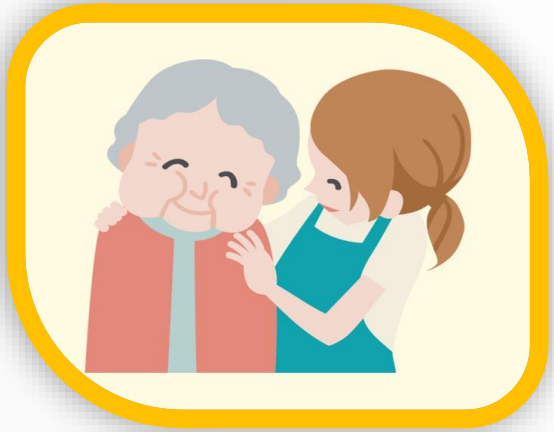
①外国人職員の定着を図る為に、考え方の変換や育成に伴うプログラムを構築していく

②多様な働き方の職員の配置を柔軟に考えていく

③変化していく介護現場の業務1つ1つの重要度を考え、考え方、方法を都度見直していく

④感染対策をしながらも、ケアの質が落ちない努力をしていく

⑤福祉機器、用具の更なる活用



生活の場である事を意識し、
負の影響がないことを前提に考える

仕方がないと
あきらめない！

ご清聴ありがとうございました